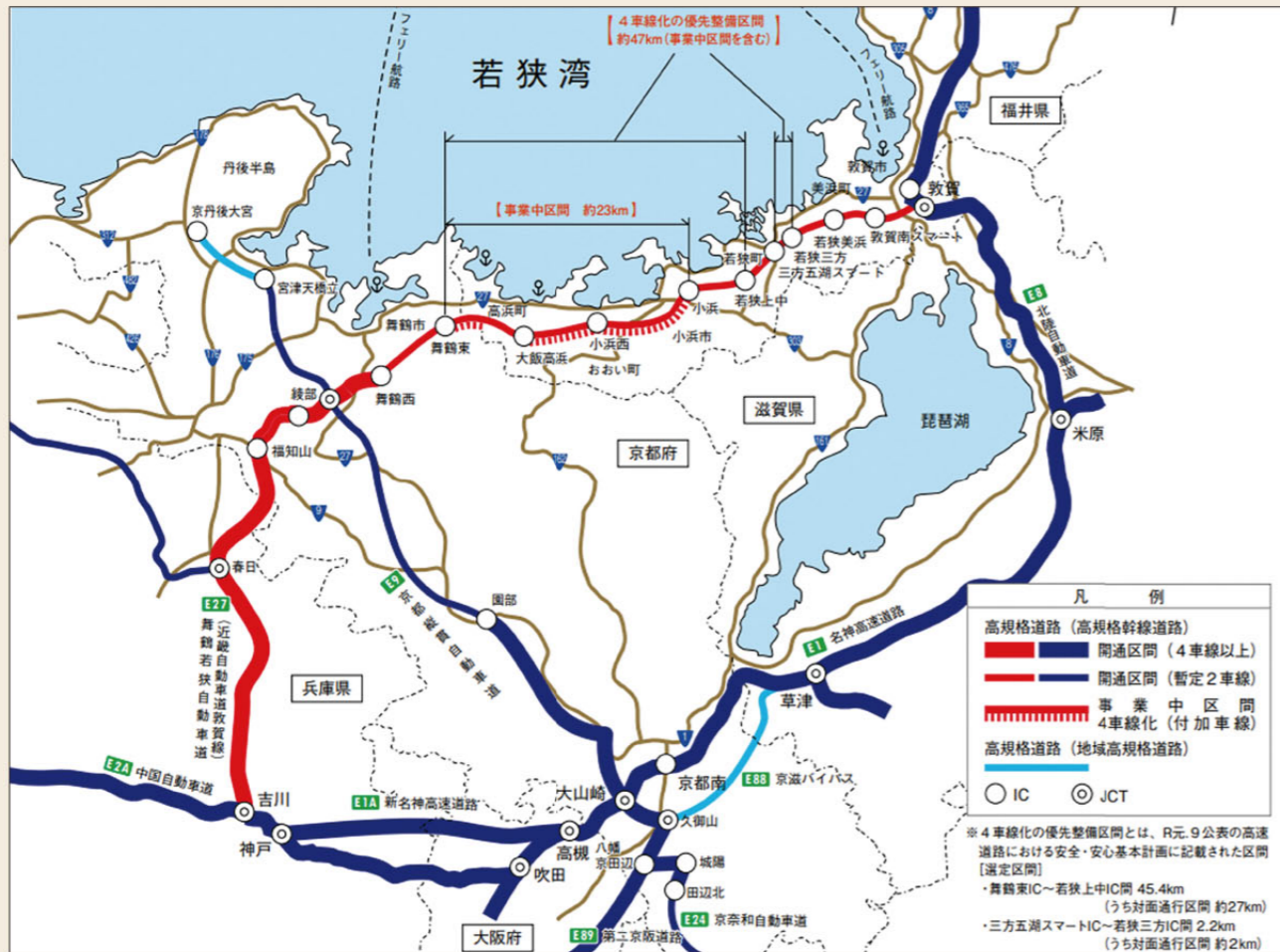
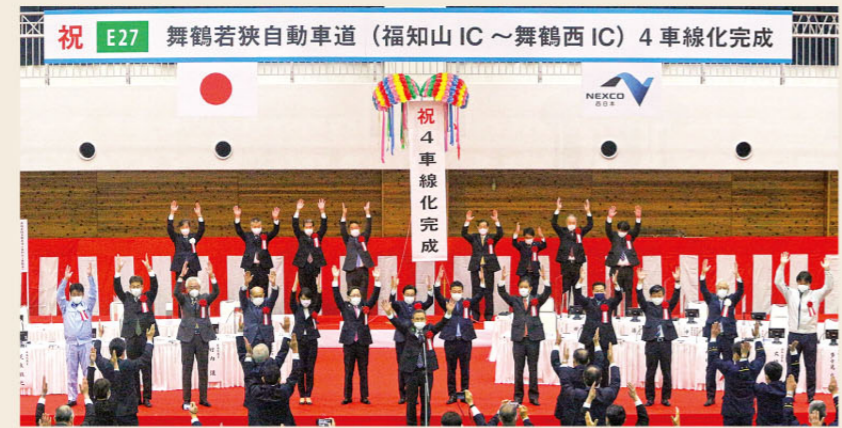


交通



▲舞鶴西 IC (ネクソコ西日本提供)



▲福知山～舞鶴西間 4車線完成式 (令和3年4月4日)

令和3年3月26日、舞鶴若狭自動車道福知山IC～舞鶴西IC間(約23km)の4車線化整備が完了しました。



平成27年7月18日、京都縦貫自動車道京丹波わちIC～丹波IC間、約19kmが開通し、久御山JCT～宮津天橋立IC約100kmが全線開通しました。



平成26年7月20日、舞鶴若狭自動車道小浜～敦賀JCT間約39kmが開通し、吉川JCT～敦賀JCT間約162kmが全線開通しました。

高速道路ネットワークの確立

舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道の全線開通により、北陸自動車道や名神高速道路、中国自動車道などと一体となって、北近畿の環状ネットワークを形成。舞鶴をはじめ京都北部地域にとって観光周遊ルートによる観光客数や観光消費額の増加につながっています。

また、京都舞鶴港の取扱貨物量の増加や企業誘致などによる物流拠点としての機能強化が図られたほか、災害・緊急時の代替ルートとして復旧・支援に寄与する道路としての役割も担っています。



▲由良川橋(福知山～綾部間)(京都府提供)

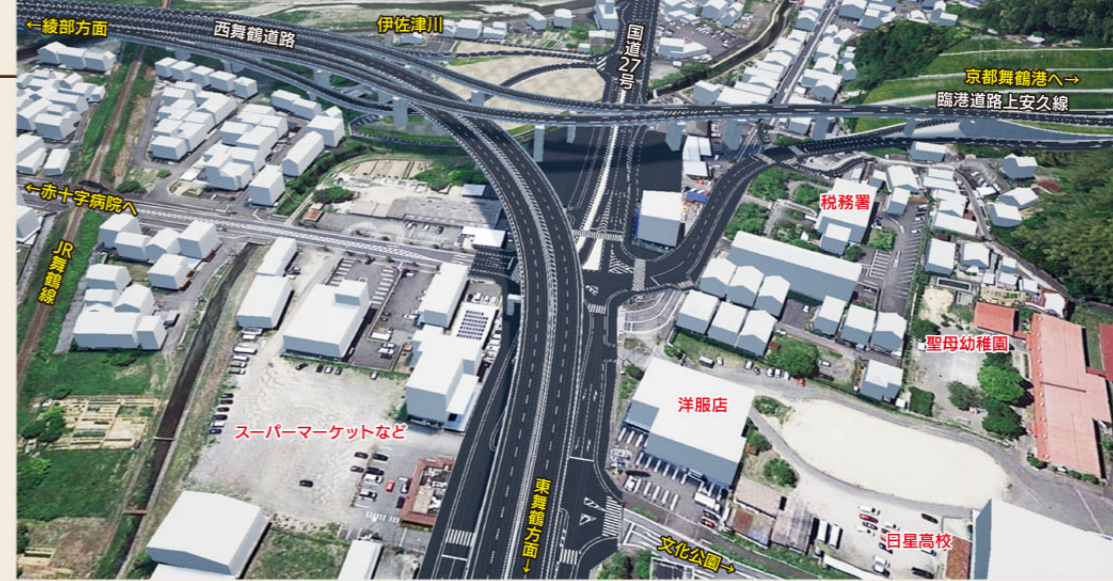
交通量の増加に対応した快適で、安全な走行の確保はもとより、観光などの人流や港湾を拠点とした物流など、丹波、丹後、若狭と京阪神都市圏とのさらなる連携強化、また、災害発生時における支援物資の緊急輸送などの安定した通行確保が可能となりました。

◇高架橋部
令和4年度より、国道27号に隣接する橋脚工事から着手しており、今後も施工が進められます。

◇起点部（臨港道路和田下福井線接続部）
令和4年度より、臨港道路和田下福井線接続部の橋梁工事に着手しており、今後も施工が進められます。

●臨港道路上安久線
京都舞鶴港から国道27号西舞鶴道路までが一体的に連結され、舞鶴西ICと結ばれることで、京阪神への交通アクセスの改善が図られ、港湾利用者の利便性向上と併せ、騒音の低減や安全性の向上につながる事が期待されます。

臨港道路の整備促進



▲完成イメージ図（舞鶴港湾事務所提供）



▲道路ネットワーク

西地区の南北方向の交通を国道27号と西舞鶴道路で担うことにより、市街地の交通量を振り分け、大手交差点などの交通の混雑緩和や安全性の向上につながることで、京都舞鶴港と舞鶴西ICとのアクセス性が向上し、物流の効率化が図れることが期待されます。

国道27号西舞鶴道路の整備促進

◇境谷トンネル（北向き上り線138m・南向き下り線221m）
上り線は、令和3年8月に掘削工事開始、令和4年7月に工事完了、万願寺トンネル（未着工）との間の山の斜面の掘削工事等は令和6年3月に完了します。

◇上安久高架橋橋脚
JR舞鶴線に近接する7基の橋脚について、令和3年9月に本体工事が着手され、令和5年12月に完了しました。



▲起点部橋梁完成イメージ図（舞鶴港湾事務所提供）



▲PBI橋脚工事（舞鶴港湾事務所提供）



▲「海舞鶴みなと橋」開通式（令和5年11月27日）

●臨港道路和田下福井線（海舞鶴みなと橋）
◇海舞鶴みなと橋（橋長66・4m）
埠頭間の移動時間短縮による物流の効率化が図れるとともに、西地区の東西方向の交通を国道175号と臨港道路で担うことにより、交通混雑の緩和など市民の利便性の向上につながる事が期待されます。
事業は、平成22年度から進められ、令和5年11月27日に、事業延長約320mの区間が、供用されました。



▲上安久高架橋橋脚工事（福知山河川国道事務所提供）



▲境谷トンネル坑口付近（福知山河川国道事務所提供）

主要地方道小倉西舞鶴道路の整備促進

東西市街地の慢性的な渋滞の緩和や連携強化による一体的なまちづくりの推進、歩道整備による安全・安心な通行環境の確保、老朽化対策や無電柱化による災害に強い道路ネットワークの確保、西舞鶴道路との接続などが期待されます。



▲新白鳥トンネル完成イメージ図（京都府提供）

●倉谷工区（320m）

◇二ツ橋交差点から倉谷交差点までの間を4車線化するほか、無電柱化や歩行者と自転車を分離した歩道の設置工事が進められています。
◇二ツ橋交差点付近から舞鶴赤十字病院前交差点付近で、道路の嵩上げと拡幅が概ね終了しました。
◇今後、二ツ橋交差点から舞鶴赤十字病院前交差点付近の無電柱化や倉谷西交差点付近での拡幅工事が進められます。



▲道路築造工事（倉谷工区）

●白鳥トンネル工区（約1.4km）

◇東西市街地の交通が集中する、市道北吸森線交差点から上安天台線交差点までの間を4車線化するほか、トンネルの新設や拡幅改良工事が進められています。
◇令和4年1月から本格着手した新トンネル工事は令和5年1月に貫通、新トンネルから清道交差点付近までの盛土工事も完了しました。
◇今後、トンネル坑内の舗装や道路築造工事が進められます。



▲新白鳥トンネル（仮称）貫通式（令和5年2月18日）

鉄道の整備促進

●京都丹後鉄道（北近畿タンゴ鉄道）

◇平成2年にJR宮津線から転換開業し、北近畿タンゴ鉄道（KTR）として運行。
◇平成27年にKTRが鉄道施設を保有・管理し、WILLER TRAINSが鉄道の運行を行う上下分離方式による運行を開始。鉄道名称を「京都丹後鉄道」に名称変更。



▲由良川橋りょうを走行する丹後あかまつ号

●交通系 IC カードの導入

◇令和3年にJR東舞鶴駅、西舞鶴駅に交通系 IC カード「ICOCA」が導入され、乗り継ぎの利便性が大きく向上。
◇舞鶴市公共交通ネットワーク会議によるICOCAの販売を行う普及促進事業や、ポイント還元を行う利用促進事業の実施により、多くの市民に利用が広がっています。



▲交通系 IC カード「ICOCA」



▲丹後あおまつ号



▲丹後くろまつ号



▲丹後くろまつ号内観



▲丹後の海

◇平成25年4月14日、数々の鉄道デザインを手掛ける工業デザイナー水戸岡鋭治氏のデザインによる観光列車「丹後あかまつ号」と「丹後あおまつ号」が運行開始。

◇平成26年5月25日、レストラン列車「丹後くろまつ号」が運行開始。

◇平成27年11月13日、海の京都をイメージした「丹後の海」が運行開始。

新たな公共交通の構築

●meemo

◇共助による地域共生社会の実現を目指し、令和2年度から、スマートフォンアプリを活用した住民同士の送迎サービス「meemo」の実証実験を実施。令和3年に鉄道・バス・タクシー・自家用有償旅客運送（meemo）による交通体系のあり方をまとめた新たな「舞鶴市地域公共交通計画」を策定。
◇既存の公共交通を補完する役割を担いながら、地域に根ざした新しい公共交通として、令和4年度から高野地域において本格運行開始。

